説教要旨　「隣人を愛せよ」

ルカによる福音書１０章２５～３７節

イエス様の弟子の１人であった律法の専門家が、イエス様を試そうとして「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」(25)と問いかけました。イエス様がこの問いにどう答えるか、その答えを律法の専門家の立場から批評してやろうというのです。この悪意ある問いに対してイエス様は、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」(26)と問い返されます。神様を愛し、隣人を愛することだと答える彼にイエス様は、「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる」(28)と言われたのです。イエス様を試そうとしていたはずの律法の専門家である彼の方が、いつの間にかイエス様によって批評されてしまっています。そこで彼は、自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」(29)と更に問いかけ、それに答える形で有名な『善いサマリア人』のたとえ話が語られて行きます。

イエス様はここで、この律法の専門家に、永遠の命を得るための手だてを教えておられるのではありません。「あなたはすでに答えを知っているだろう？後はそのように生きているかどうかだ」と問いかけておられるのです。この彼は、専門家だけあって律法のことをよく知っています。その中心となる教えは何かを的確に捕えています。しかし、あなたはそれを実行しているのか、その教えの通りに生きているのか、と問われた時、自分がこの教えの通りに生きていないということに気付かされたのです。

この問いがそのまま私たちにも向けられています。私たちは、この律法の専門家と同じように、イエス様からの問いによって、自分が神様をも隣人をも愛することが出来ておらず、結局は自分自身のみを愛していることに気付かされるのです。イエス様の弟子としてどのように歩むべきか。その答えを私たちはすでに知らされています。にもかかわらず、そのように歩むことが出来ず、言い訳ばかりしてしまう。そんな情けない私たちをイエス様は、「行って、あなたも同じようにしなさい。」(37)と言って再び送り出してくださるのです。

（２０１９・４・７　説教者：稲垣真実）